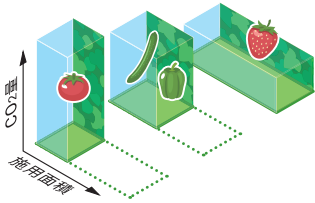


製品ラインナップ

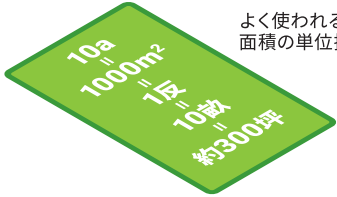
MODEL		CSG-34	CSG-64	CSG-104
CO2供給量	kg/h	～0.45	～1.5	～5.0
(1日CO2回収量)	(kg/day)	(～2.7)	(～9)	(～30)
施用面積	a	1～3	3～10	10～30
最大電流	A	19	31	78 温水使用時:20
最大電力量	kVA	6.6	10.7	27.0 温水使用時:6.9
寸 法	mm	740×847×1344	854×847×1595	1381×1257×1747
重 量	kg	220	310	450
設置場所		ハウス内	ハウス内	屋外
電 源		AC200V×3φ×50/60Hz		

施用面積について

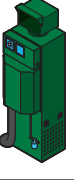
葉の高さの違いで必要なCO2量は
いちご<ピーマン<キュウリ<トマト
の順で多くなります。
そのため、対応する施用面積は作物
によって異なります。



よく使われる
面積の単位換算



ランニングコスト比較表

	C-SAVE Green®	燃焼方式	ボンベ式
			
ランニングコスト	13万円	15万円	59万円
ハウス内温度上昇	なし	あり	なし
メンテナンス	年1回の定期点検	燃料補給	ボンベ交換
原料由来	大気	化石燃料	化石燃料

2024年度の実際の値を元に算出

灯油代 : 120円/L
電気代 : 25円/kWh
ボンベ代 : 300円/kg

C-SAVE Green®とボンベ式は
1日8時間、12～5月(6ヵ月)の運転

燃焼方式は
1日5時間、12～3月(4ヵ月)の運転

いちご以外の作物でも実証試験先を募集しています。

試験的な装置導入・他作物への適用に
ご興味ある方はご相談ください。

小型試験機(電源:単相100V、15A以内)で、小区画での試験も可能です。



お問い合わせは
こちらから

導入事例

アグリグループ「越谷いちごみらい園」

燃料不要、大気中のCO2を集めて作物に供給するC-SAVE Green®

—— 西部技研の独自技術がカーボンニュートラルな農業に貢献



マイナビ農業
詳細記事



連絡先 sales@seibu-giken.co.jp



ホームページは
こちらから

ハウス栽培向け
大気中二酸化炭素(CO2)濃縮・供給装置

C-SAVE
Green®

第50回
(令和6年度)

発明大賞
東京都知事賞
受賞

収量増加

高設いちご栽培での
実証試験で確認

環境配慮

化石燃料を使わず
常温で安全かつクリーンな
CO2ガス供給

手間なし

原料は大気のため
燃料補給やガス交換不要
カンタン設置

濃縮CO2を吸収させると
収穫量約27%UP!
→約2年半で投資回収可能!!

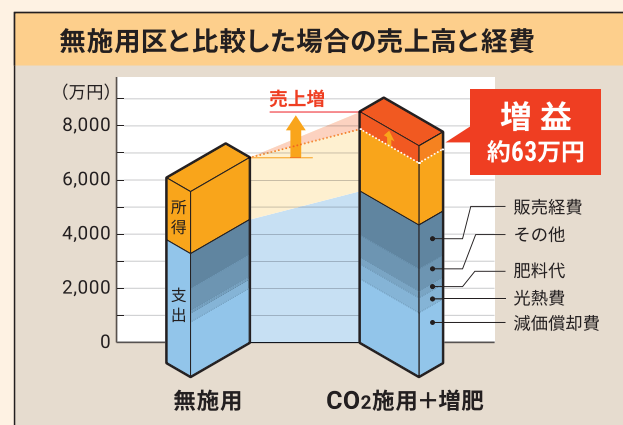
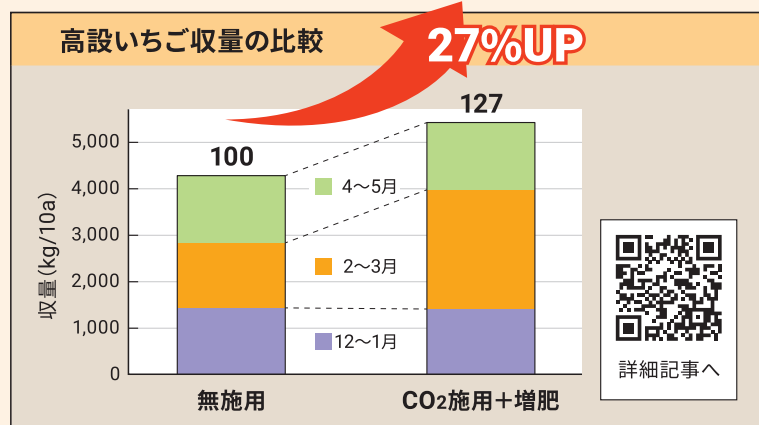
燃料不要! ボンベ不要!
空気中のCO2を集めてハウスへ供給!



収量増加

福岡県農林業総合試験場と共同で 高設いちごによる実証試験をおこない 収量増加が確認できました

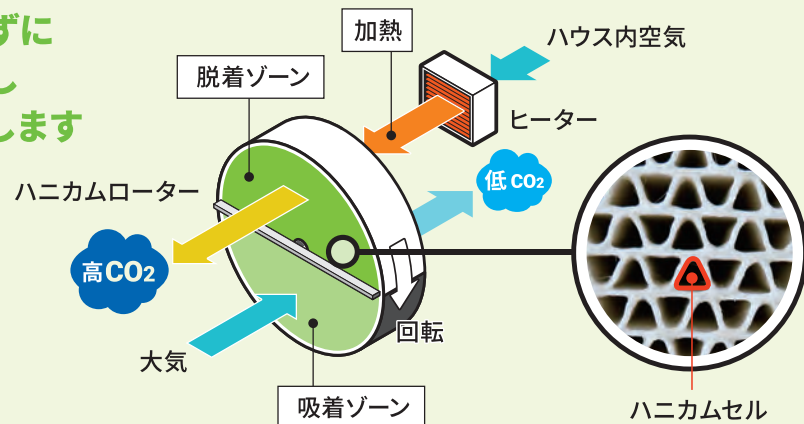
C-SAVE Green®でのCO₂施用+増肥と無施用の収量を比較したところ、
1シーズン(6か月間)で**約27%の収量増**が確認できました。
また ①**約2年半**で投資回収可能 ②減価償却で考えても**約63万円**の増益が確認できています。



環境配慮

化学燃料を一切つかわずに 収量増加の効果を発揮し 環境負荷の低減に寄与します

大気中のCO₂を吸着し、低温で脱着する吸着材を自社開発し、独自技術でハニカムローターに加工しています。
このローターにより、大気中のCO₂を集めてハウスへ供給することができます。
必要なのは電気のみで、化石燃料を一切使いません。



C-SAVE Green®の基本構造

手間なし

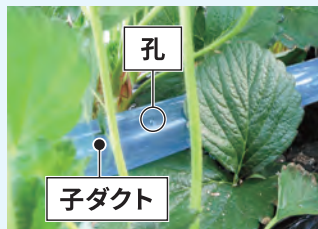
設置もカンタン メンテナンスコストも低く 手間もかかりません

- ・取っ手が付いて、キャスター移動もラクに
- ・化石燃料を使わず、交換の手間も不要に
- ・ハウス内と同等温度なのでそのまま局所施用が可能



局所施用ダクト

栽培列数、長さで必要部材をお見積りいたします。
(ダクト設置マニュアルでサポート)



安心の 保守・ メンテナンス

メンテナンス

- フィルタや各機器の無償点検をおこないます。
- 供給CO₂濃度を確認し、安定した効果のためにローターのメンテナンス・交換が必要かをお知らせします。

故障予防、迅速な トラブルシューティング

- 1年目は装置内センサーで稼働状況を遠隔監視して、装置の異常を事前に察知します。
- 2年目以降は定期的にセンサーログを確認します。

実績報告として、装置状況・灯油削減量などの脱炭素量を共有

運転方式

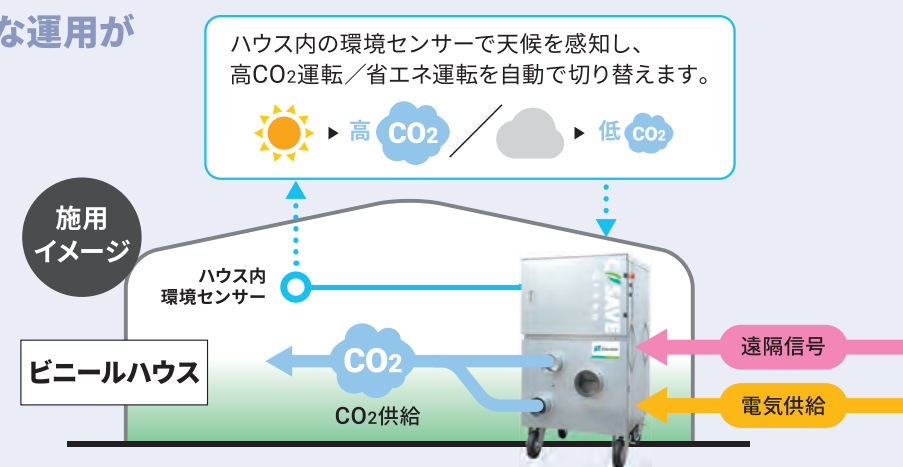
自動運転でより効率的な運用が可能になります

1 タイマー運転 & 自動濃度制御

2 遠隔運転

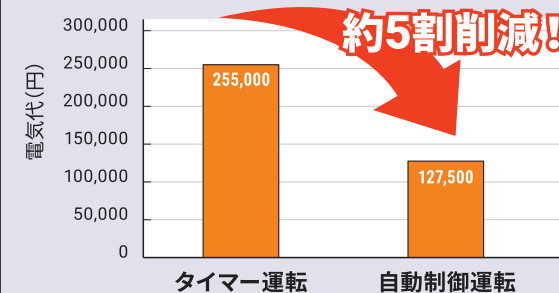
別システムからの出力信号で運転
自動濃度制御も可能

3 手動運転



電気代比較

電気代: 25円/kWh



自動濃度制御により電気代削減

生育環境の状況変化による、いちごの光合成量に合わせた最適なCO₂濃度になるように、自動制御で供給することを可能にしました。
実際に導入いただいた千葉の高設いちご施設ではタイマー運転に比べて実際の電気代が**約5割**抑えられているという結果が得られました。

ハウス内空気の +200~300ppmを施用可能

供給されるCO₂は常温であるため、冷やすことなく局所施用が可能です。
群落内のCO₂濃度を高く保つことができ、効率よくCO₂を供給できます。

高設いちご群落内のCO₂濃度推移



C-SAVE
Green®